4. 食堂篇・教室篇

1. 食堂篇

（下课后的教室。）

老师：好了，今天就讲到这儿吧！

学生们：谢谢老师。

田中：终于上完课了。肚子都“咕咕”叫了。

铃木：就是啊，赶快去食堂吧！

（食堂入口的实物菜单前。）

田中：哇——，看上去都挺好吃的，今天吃哪个呢？

铃木：我吃和食。最近在减肥，不想吃太油腻的东西。

田中：是吗？

铃木：嗯。清淡点的东西比较好。

田中：那我就吃这个乌冬面吧。看着不错，再加个甜点。

（甜点柜台前。）

田中：看起来哪个都不错。

铃木：看你眼睛都放光了。

田中：决定了，就要这个蛋糕了。

（食堂餐桌。）

铃木：要茶吗？

田中：要。来学校后就没喝过东西，嗓子都冒烟了。

铃木：好，我去拿！

田中：谢谢。

（食堂餐桌。佐藤学兄走过来。）

佐藤：嗨！

田中：啊，师哥，吓我一跳。

佐藤：（朝向铃木）你好。

田中：这位是我戏剧小组的师兄（向铃木介绍佐藤）。

铃木：（朝向佐藤）你好。

佐藤：（朝向田中）那个，舞台的道具做了吗？

田中：啊，还没呢。

佐藤：真没办法！快抓紧吃完饭去做吧。

佐藤：今天必须做完啊！

田中：知道了。

B.教室篇

（教室，课间休息。）

佐藤：喂，没事吧你！一直在那儿愣神儿，出什么事了吗？

哥哥：（叹气）嗯。早上来学校的途中，偶然遇见了中学时代喜欢的女孩儿。

佐藤：啊～是吗？！

哥哥：她越来越漂亮了。

（女中学生照片）

哥哥：有一次，上课的时候，我一动不动地盯着她的侧脸，还被老师给训了。

佐藤：啊，是吗！

哥哥：现在，她长得简直和那个明日香一模一样。

佐藤：哪个“明日香”？哦，就是最近畅销漫画的主人公吧？

哥哥：对对。长发披肩，清爽柔顺的样子。（一副陶醉的表情）

佐藤：喂，喂！

哥哥：毕业那天我鼓足勇气向她表白，她羞的脸都红了，太可爱了～

佐藤：那，结果如何？

哥哥：当场就被拒绝了。

佐藤：好可怜。

哥哥：我深受打击，一个星期没出门。

佐藤：那你干什么了？

哥哥：看看漫画，在家闲晃。

佐藤：由此你就成为漫画发烧友了吧！这么说来，你房间的书架上应该摆满了漫画吧

！ 哥哥：我这可是在以自己的方式忘记失恋啊！是漫画将我从失恋的痛苦中拯救出来的！

佐藤：（吃惊地说）知道了，知道了。4. 食堂・教室 編

A.食堂編

（放課後の教室）

先生：じゃ、今日は終わりましょう。

学生たち：ありがとうございました。

田中：やっと授業が終わった～お腹ぺこぺこだよ。

鈴木：そうだね、早く食堂に行こう。

（食堂入り口実物見本前。）

田中：（横顔）うわ～おいしそう。何にしょうかなぁ～

鈴木：私和食にする。最近ダイエットしていて、脂っこいもの食べたくないんだ。

田中：（鈴木を見て）そうなの？

鈴木：うん。あっさりしたものの方がいい。

田中：じゃ、私はこのうどんにしよう。すごく美味しそう。あとデザートも！

（デザート棚）

田中：どれも美味しそう～

鈴木：目がきらきらしてるよ。

田中：決めた！このケーキにしよう。

（食堂テーブル。）

鈴木：お茶は？

田中：要る！大学来てから何も飲んでないからもう喉からから。

鈴木：じゃあ、持ってくるよ

（食堂テーブル）

佐藤：よ！

田中：あっ！先輩！びっくりした。

佐藤：（鈴木に）どうも。

田中：演劇部の先輩（鈴木に佐藤を紹介する）。

鈴木：（佐藤に）どうも。

佐藤：（田中に）あのさ、舞台の道具もう作った？

田中：あっ、まだです。

佐藤：しょうがないなぁ、、、さっさとご飯食べてやってよ。

佐藤：今日中によろしくね！

田中：はい。

B.教室編

（教室休み時間）

佐藤：おい！大丈夫？さっきからずっとぼうっとして。なんかあったの？

兄：（ため息）うん、実は大学に来る途中、中学時代好だった子とばったり会ったんだ。

佐藤：あ～そうなんだ。

兄：彼女ますます可愛くなってたなぁ～。

（中学生女子写真）

兄：昔さ、授業中彼女の横顔じっと見てて、先生に怒られたこともあったんだ。

佐藤：あ、そう。

兄：今は、彼女、あの明日香ちゃんと顔そっくりだよ。

佐藤：明日香って？あ、今流行ってる漫画の主人公？

兄：そうそう、髪がストレートで、すごくさらさらしてて。（ぼうっとした表情）

佐藤：おいおい！

兄：卒業式の日に勇気を出して告白したんだ。あの子、顔が赤くなって、かわいかったなぁ～

佐藤：で、結果は？

兄：その場でふられちゃった。

佐藤：かわいそうに。

兄：俺、ショックでさあ、俺、一週間ぐらい家から出られなくなった。

佐藤：で、何してたの？

兄：漫画読んでごろごろしてた。

佐藤：それで漫画オタクになったんだ。そういえば君の部屋、本棚にぎっしり漫画並んでたよな～

兄：失恋のこと忘れようと俺なりにがんばったよ。漫画が俺を失恋の痛みから救ってくれたんだ！

佐藤：（あきれたように）はいはい。分かった、分かった。